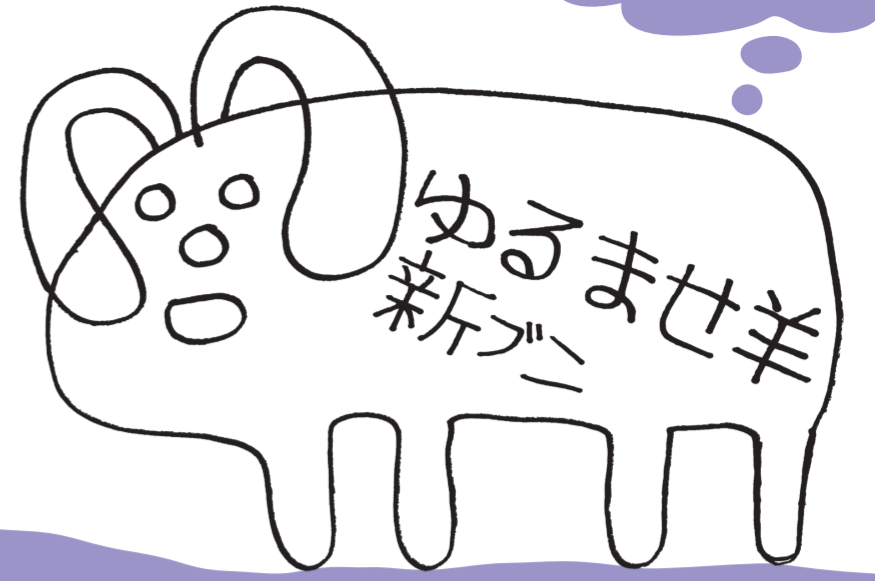


# 50周年らしいでー



「一羊会だより」で紹介しきれなかった話題を集めてお届けします。

すとのがのふ からおけがのふ (仁田葉月さん『あとりえすずかけ雑貨展』フライヤー作品より抜粋)

題字と絵 森本 拓巳 / 写真と文 神田 浩平

## すずかけの間その10 ～富塚純光展～



あとりえすずかけが毎年開催している展覧会【すずかけの間】が、2026年3月に開催されました。節目となる10回目を迎えた今回は、富塚純光さんの作品を展示し、5日間で100名以上の方にご来場いただきました。



『全ては記憶から始まった』。  
印象的な言葉から始まるこの作品には、ヨーロッパに生息する怪物と恐竜の合の子「牛竜象」と、その誕生の秘密が描かれています。  
画面いっぱいに広がる文字や色彩から、富塚さん独自の世界観を感じることができます。



期間中には、富塚さんご本人によるワークショップも2回開催されました。ひとつは、即興で描いたメモ絵を会場の壁面に貼っていく『メモ絵ワークショップ』、もうひとつは、お客さんと会話をしながら似顔絵を描く『似顔絵ワークショップ』です。どちらのワークショップにも多くの方が参加され、似顔絵ワークショップでは午前・午後あわせて4組のお客さんの絵を描かれました。お客さんやギャラリーの期待に応えようと、真剣な眼差しで丁寧に描き進める富塚さんの姿が、とても印象的でした。



富塚さんの作品には、絵とともに日記や物語が添えられているものが多くあります。ワークショップの合間には、ご自身の作品に書かれた文章を会場で読み上げる場面もありました。集まったお客さんに楽しんでもらいたいという思いが感じられる、あたたかな時間となりました。

富塚さんは以前から、作品を展示することを創作活動の大きなモチベーションにされてきました。今回の展覧会での経験を通して、また新たな気持ちで作品づくりに向き合われていくのではないかと思います。

## 2026年度入職

### 新任職員さんインタビュー

入職して1カ月たった新任職員さんたちの現在についてお聞きしました。

- Q1 これまで働いてみてどうですか？
- Q2 仕事の中で印象に残ったこと、ほっこりエピソード
- Q3 これから頑張りたいこと
- Q4 休日の過ごし方



あべ ことね  
阿部 寿音

#### 武庫川すずかけ作業所 軽作業班 所属

Q1 入職前の半年間、武庫川すずかけ作業所でアルバイトをさせていただいていましたが正式な職員として毎日利用者さんと関わることができて楽しいです。当たり前のことですが、アルバイトの時以上に責任感が求められることを日々実感しています。これから一人ひとりの利用者さんとの関わりを大事にしたいです。

Q2 ジェスチャーをメインに職員とコミュニケーションを取っている利用者さんとの関係性を少しずつ築くことができました。最初は利用者さんとのコミュニケーションに迷うことが多々ありましたが、次第に利用者さんから笑顔を見せてくださったり、手を振ってくださるようになりそのたびにほっこりとした気持ちになります。

Q3 車の運転です。今は運転の練習段階で、屋内作業メインで関わらせていただいているのですが、早く運転ができるようになって、利用者さん一人ひとりの強みを屋外作業で更に関わることができるように頑張りたいです。

Q4 のんびり過ごしています。



たけぼやし はな  
竹林 花葉

#### 上甲子園すずかけ作業所 菓子班 所属

Q1 入職当初は、支援員としてどのように関わればいいのか戸惑うこともありましたが、日々の業務を通して少しずつ利用者さんのことが分かるようになってきました。まだ分からないことも多いですが、周りの職員の方に支えていただきながら、少しずつ成長していきたいと思っています。

Q2 作業中、利用者さんに分からないことを教えていただいたことが印象に残っています。利用者さんの方が作業の先輩であり、教えていただく場面もありました。

Q3 利用者さん一人ひとりのベースや特徴を大事にしながら、それぞれに合った関わりができるようになりたいと考えています。日々の経験を積み重ねながら、少しずつできることを増やしていきたいです。

Q4 休日は自宅でゆっくり過ごしたり、友人と出かけたりしてリフレッシュしています。



たけした まなみ  
竹下 愛珠

#### 一羊園 所属

Q1 福祉についてあまり知識がない状態だったので、利用者さんの特性を知り、どういった形で支援することが、その利用者さんの為になるかを日々学び、難しいと感じました。

Q2 イベント等関係なく、日々の生活の中で利用者さんが笑っておられ、好きな物を知れたことが印象に残っています。また、利用者さんに「好き」と言ってもらえたことも強く印象に残っています。

Q3 業務を覚えることもそうですが、利用者さんが自分らしく過ごせて楽しめるように、その方の特性を知り、行動できるようにしたいです。

Q4 普段は家で過ごすことが多いですが、友達と買い物等、遊びに行くこともあります。



## 佐川さんの 買い物支援の取り組みを ご紹介



すずかけ作業所の佐川周作さんは、もともとお金の種類を理解されており、買い物の際にはご自身で支払いをされています。ただ、小銭を使った支払いが少し苦手なため、小銭を持っていても大きな硬貨や紙幣で支払うことが多く、財布に小銭がたまりやすい状況がありました。

そこで支援員と一緒に取り組んだのが、視覚的に分かりやすく提示された「ちょうどよい金額の組み合わせ」を見ながら、お金を用意する方法です。

マジックテープで取り外しができる疑似紙幣や硬貨を貼ったファイルを使用し、支援員が適切な組み合わせを提示します。佐川さんはそれを確認しながら、実際のお財布から同じ組み合わせのお金を取り出して、ご自身で支払いを行います。

取り組みを始めてすぐに、佐川さんもこの方法を理解され、まずは作業所の自動販売機で活用されました。その後は、コンビニのセルフレジや図書館の自動販売機など、少しずつ活用する場面が広がっています。

この取り組みによって、佐川さんのお財布もきつと軽くなったことでしょう。

今後は、ファイルをさらにコンパクトにし、作業所以外の生活の場面でも活用できるようにしていくことを目標にされています。

## サニカム班、 図書館に通っています



毎週水曜日に、すずかけ作業所サニカム班の利用者さん数人で近隣の図書館へ通っています。それぞれ興味のある本を数冊借りてご自宅やグループホームで読んでいるそうです。